

鳥取県における小規模水道の現状分析と課題

社会開発システム工学科 環境計画研究室 上口 裕太

1. 背景

鳥取県

中山間地域に小規模な集落が点在
1988年県内の人口がピークを迎え以後減少を続けている
近年人口減少率は、年々増加傾向

3. 研究のながれ

水道統計による事業データ

鳥取県と全国の比較

鳥取市簡水の施設データ

県内の事業同士の比較

施設の脆弱性

現状分析

アンケート調査

現地調査

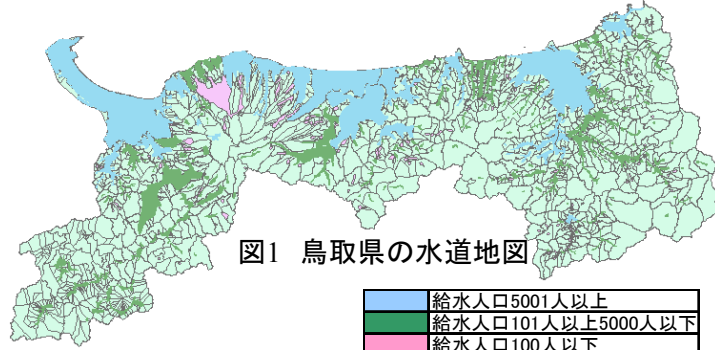
2. 目的

人口減少の時代に小規模集落の水道は
どのような問題を抱えているのか

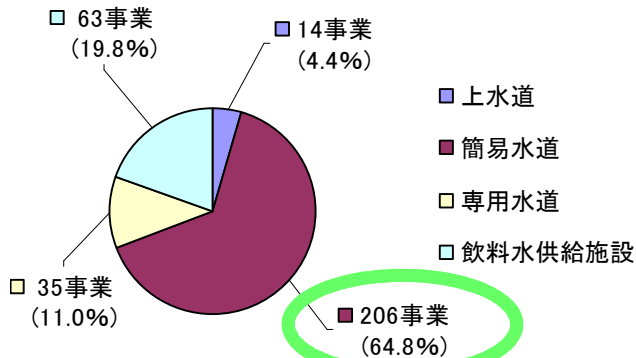
現状と課題を把握することを目的とする

4. 研究の対象

鳥取県内の小規模な簡易水道

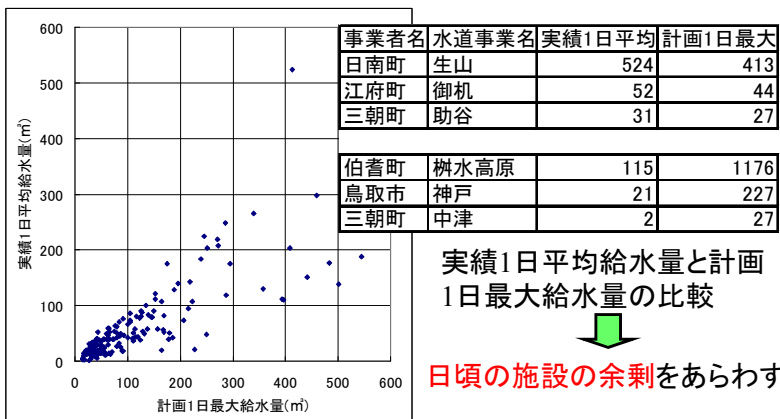


5. 鳥取県内の水道事業の特徴



簡易水道が、全体の事業数の64.8%を占める

6. 事業同士の比較の例



7. 現地調査の例

表 木原飲供

市町村名	鳥取市
給水区域名	木原
現在給水人口(登録)	13
維持管理主体	地元管理
給水戸数	4
給水世帯数	6
給水人数	7
水源	浅井戸



- 鳥取市国府町にある地元管理の飲料水供給施設
- 住人は68歳から78歳の7人

高齢化により、水田の耕作を中止
→浸透水が減り、水量が不足し、断水

市管理への移行に1世帯35万円必要
→高齢化が進む地域では、大きな負担

8. まとめ

- 老朽化に伴う施設の維持管理費の増加
 - 水道使用料金の事業間格差
 - 施設の耐用年数を超えた使用
 - 一般会計からの繰入金が増大
 - 地元管理から市管理への移行のための費用負担など
- 小規模水道特有の問題が明らかになった